

愛知県ハンガリー友好協会会報

2013年4月号

《寺西会長ご逝去》

当協会会長、寺西学氏（元県議）が3月22日夜ご逝去なさいました。77歳でした。1997年秋、協会設立時から15年半、会長として会を導いてくださいました。総会やハンガリーフェスティバルにご出席くださった時には、とても穏やかで温かいお言葉を頂戴し、皆様にもとても気さくにお声をかけてくださいました。会のためにもっともお力をお借りしたかったのに、とても残念でなりません。心よりご冥福をお祈りいたします。
合掌

《ハンガリーフェスティバル in 愛知》

今年のハンガリーフェスティバル in 愛知は、「ハンガリーの音と色を楽しもう！」と題して、6月2日(日)13:30~16:30、名古屋国際センターホールで行うことが決まりました。ピアノトリオの音と、アニメーションの色を楽しむことをメインに、皆さんとの交流、ハンガリー刺繍サークルの作品展とハンガリーの子どもたちの絵画展もお楽しみください。ハンガリーの子どもたちの絵画は、デンソーハンガリーの工場があるセーケシュフェヘルヴァールのムンカーチ・ミハイ小学校とハング・シーン・テール芸術専門学校の2校から届きます。今回は「あいちトリエンナーレパートナーシップ事業」として盛りだくさんのプログラムとなりました。是非是非皆様お誘い合わせてお出かけ下さい。なお、今チラシを作製中で、また改めでご案内いたします。

13:30~14:00 ハンガリーの調べ（ピアノ・ヴァイオリン・チェロ）

曲目：ブラームス/ハンガリー舞曲第5番

フバイ/ライラック（Fliederbusch）op.109

コダーイ/アダージョ

ハイドン/ピアノ三重奏曲 第39番 ト長調 Hob.XV:25 「ジプシー・トリオ」

演奏：久野絵美(ピアノ) 大迫綾香(ヴァイオリン) 山田真吾(チェロ)



14:00~15:00 カラー in モーション：ハンガリーを彩るアニメーションの躍動

内容：ロゴや国旗の色にもそれぞれ意味があるように、ひとつの作品のなかで使われる「色」には様々なメッセージが込められています。今回は作品中の「テーマカラー」に着目して、アニメーションに織り込まれたハンガリーの日常や文化のあり方を紐解いてゆきます。日本ではあまり観覧する機会のないハンガリーアニメーション。本講演では、楽しく解説を交えながら作品を上映します。

解説：板橋晴子（なぼちか はるこ）



Boltosmesék 「お店のおはなし」



A rest legényről 「怠けもの長者」

短編7作品を上映予定（日本語字幕あり）

15:15~16:30 みんなで交流しましょう!

ハンガリーサラミ+パン、ハンガリーのお菓子、ハンガリーワインなど

展示：ハンガリー刺繍サークルの作品展

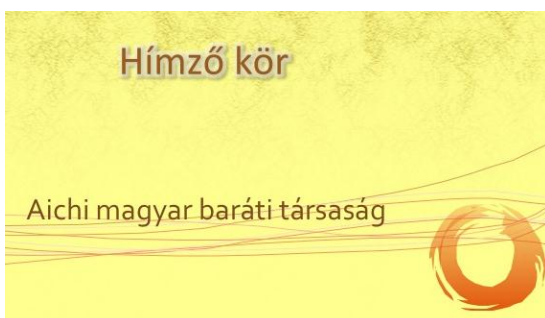
ハンガリーの子供たちの絵画展

（ムンカーチ・ミハーイ小学校、ハング・シーン・テール芸術専門学校）

《ハンガリー刺繍サークル》

ハンガリー刺繍サークルは毎月 第3火曜日 AM9:30~12:00 名古屋国際センター5F 第5会議室で行っています。今はサークルメンバー17人。最近日本でもハンガリー刺繍の本が何冊か出版され、その本を見て感動された若い方々の入会が続いています。2003年から始まり10年が経つのを記念して来年3月27日から4月2日まで作品展を行うことが決まりました。先日3月19日のサークルでは、早稲田みか先生（大阪大学教授）にミニ講演をお願いし、作品展に向けての気持ちを高めました。ハンガリーで私たちのサークルをご紹介くださった映像や、毎年8月下旬に王宮で行われる民芸祭りの様子などの映像を見せていただきました。

指導者の磯村さんと斉藤さん



Iszomura tanárnő



Szaitó tanárnő



刺繍サークルの皆さん とても熱心に作品制作中

《ハンガリー語入門講座》

ハンガリー語入門講座は刺繍サークルより1年遅れ2004年から始まりました。毎月第2・4水曜日 AM10:00~12:00 名古屋国際センター5F 第5会議室で行っています。受講者の入れ替わりがありますが、いつも約10人ほどが在籍しています。講座の発案者である黒川ドーラさんに昨年9月から2月までの短期間でしたが、ご指導いただきました。テキストはドーラさんのお子さんの絵本から抜粋したもので、皆さんとても真剣に受講しました。



とても丁寧で分かり易いドーラさんの授業

3月には、山口チーラさんの指導でイースターエッグを作りました。幾種類かの伝統的なデザインを参考に、丸いエッグに描くのは結構難しいですね。それぞれ好みのデザインと色を使って、とてもきれいなイースターエッグができました。最後にイースターの詩を朗読して講座を終えました。



ハンガリーで「日本ハンガリー会話サークル」を主宰しているジュラさんも参加しました。
日本語とてもお上手！私たちのハンガリー語は？



《ターンツハーズ運動 40 年・無形文化遺産指定記念事業を終えて》

トランシルヴァニア日本民俗文化センター 大塚 奈美

ターンツハーズというのは直訳すれば踊りの家を意味します。1970年代にブダペストで農村の伝統的な踊りの機会や方法が再発見され、その活動は世界各地に広がって現在に続いています。会報でもご案内していた通り、この1月、ハンガリーの名人演奏家3名を迎えて「ターンツハーズ運動 40 年・無形文化遺産指定記念事業」と題して北海道・東京都・愛知県・京都府・大阪府の各地域で様々な催しを行いました。愛知県内でも以下の通りたくさんの機会をいただきましたのでご報告します。

1月10日(木)～17日(木) 愛知県立大学内

ターンツハーズ運動の歴史や現在のトランシルヴァニアの民俗文化に関する写真展示



1月16日(水)長久手市長湫北保育園
0歳児から年長まで約160名の園児との
交流。ハンガリーの民俗舞踊と音楽



1月16日(水)長久手市国際交流サロン・
ハンガリーvol.2

国際交流協会の主催で、昨秋行なった料理講習会のメニューをボランティアの方が再現し、その料理とハンガリーに関するレクチャーと音楽・踊り

1月17日(木)長久手市文化の家(愛知県ハンガリー友好協会後援)

「民俗芸術名人」・伝統保持者らによるハンガリーの踊りと音楽(2回公演)

ハンガリーの珍しい民族楽器や本格的な民俗舞踊を紹介

1月20日(日)ルーマニア料理レストラン・
サルマーレ

「民俗芸術名人」・伝統保持者たちと楽しむ
トランシルヴァニア料理とハンガリー・ルーマニアの踊り

昼の部: トランシルヴァニアの踊りの講習と、
生演奏で実際に踊るターンツハーズ

夜の部: 民俗音楽と舞踊のショー



1月21日(月)宗次ホール

【ランチタイム名曲コンサート vol.695】

名人たちによるハンガリーの民俗音楽 (解説付き)

1月21日(月)愛知県立大学多文化共生研究所主催

(大学講堂)

ルーマニア・トランシルヴァニア地方の民族芸能：
公演と解説 (参加者：学生と地域の方)



宗次ホール社長・宗次徳二さんと

多くの方にご協力・ご来場いただきありがとうございました。今後とも皆様にお楽しみいただけるような企画をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

各催しの報告は、トランシルヴァニア日本民俗文化センターのブログ

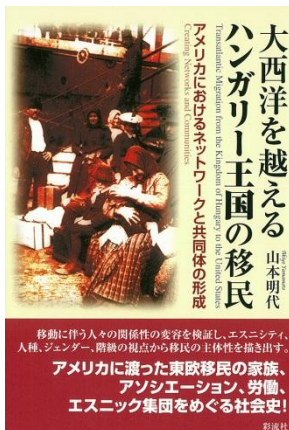
(<http://transylvania-nihon.blogspot.jp/>) にも随時掲載していきます。

《新刊紹介》

山本 明代 著

「大西洋を越えるハンガリー王国の移民 アメリカにおけるネットワークと共同体の形成」

彩流社、定価：4800 + 税



著者の山本明代先生は当協会会員です。

2001年、千葉大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程修了(学術博士)、現在 名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授

2007年に市民セミナー「国境のないまち—ハンガリーの人と文化」、2008年にはシンポジウム「観光まちづくりの国際比較—ペーチ(ハンガリー)と名古屋から考える」を行っていただきました。

内容紹介

19世紀初めから第一次世界大戦までの時期は、ヨーロッパから世界各地へと約5000万人が移民した大移動の時代であった。

とくにアメリカ合衆国への移民は圧倒的多数にのぼり、その影響は、単なる送出国と受け入れ国との関係を平板的に見るだけの視点では、捉えきれないものである。本書は、多数の言語、民族を抱え、複雑で変化に富んだ文化と社会を形成していたハンガリー王国(現在のハンガリーとスロヴァキア、クロアチアに加え、ウクライナ、ルーマニア、セルビア、スロヴェニア、オーストリアの一部を含む領土)の移民たちの動向を多角的な事例と新しい移民史の視点から、移民という“移動”の行為が、移民者だけでなく、それを取り巻く社会、人との関係にいかなる影響をおよぼし、またそれに対応するリアクションがいかなるものであったかを探る。

同時に、送出国(祖国)との関係がいかに繋がりに、また意識されてきたかを見ることによって、移民(移動)という人類の行為の持つさまざまな側面に光を当てる労作である。

(彩流社ホームページより)